



適用雑草と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の 使 回 数	使 用 方 法	A C N を 含む農薬の 総使用回数
移植水稻	ウキクサ類 藻類 (アオミドロ、 アミミドロ)	ウキクサ類、藻類の発生始 ～発生盛期 但し、収穫45日 前まで	2～3kg/10a	3 回 以 内	湛水散布又は無人ヘリコ プターによる散布	3 回 以 内
	藻類 (アオミドロ、 アミミドロ) 藻類による 表層はく離	藻類・表層はく離の発生時 但し、収穫45日前まで	2kg/10a		水口施用	
	藻類による 表層はく離		1～2kg/10a		湛水散布又は無人ヘリコ プターによる散布	
	ウリカワ	ウリカワの増殖初期(2～4 葉期)但し、収穫45日前まで	3～4kg/10a			
	ヒルムシロ	ヒルムシロの発生始～増殖 始 但し、収穫45日前まで				
	直播水稻	アオミドロ・ 藻類による 表層はく離	稲 1 葉期以降、アオミドロ、 表層はく離発生時 但し、収 穫45日前まで			
れんこん	ウキクサ類	ウキクサ類の発生始～発生 盛期 但し、収穫45日前まで	2～3kg/10a			
くわい		ウキクサ類の発生始～発生 盛期 但し、収穫60日前まで	3kg/10a	1 回		
せ り	ウキクサ類 藻類 (アオミドロ、 アミミドロ)	ウキクサ類、藻類の発生始 ～発生盛期 但し、収穫45日 前まで	2～3kg/10a		1 回	1 回





⚠ 効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ秤量し、使いきる。
- 土壌条件による影響は少ないが、極端な砂質土（極端な漏水田）では使用しない。
- 水稻及びれんこんに使用する場合、湛水状態で散布し、散布後は少なくとも3～4日間はそのまま湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。
- れんこんに使用する場合、浮き葉に薬害が生じることがあるので、立葉発生前の使用はさける。なお、立葉発生後に処理した場合であっても一時葉の退色がみられることもあるが、その後の生育収量には殆ど影響は認められない。
- くわいに使用する場合、薬剤が葉に付着すると薬斑がみられることもあるが、その後の生育収量には殆ど影響は認められない。
- 水稻が水没するような深水で使用すると薬害を生じることがあるので通常の湛水状態を保ち、必ず稲の葉先が水面上に出ている状態で使用する。
- ウキクサ類、藻類には発生始～発生盛期に使用する。ウキクサ類のうちイチョウウキゴケ（イチョウモ）には効果が劣る。
- ウリカワには増殖初期（2～4葉期）までに使用し、ウリカワの水没する程度の湛水とする。処理時期の遅れた場合には、所定量の範囲内で多めに使用する。
- ヒルムシロには発生始～増殖始に使用する。
- 本剤を水口施用する場合、予め圃場の水位をできるかぎり低下させておく。本剤を二枚重ねのネット（イネ籾ネット程度のメッシュ）に所定量を充填し、薬剤が十分溶け出すよう水の吐出部近くに設置した後水口を開栓し、5～7cm程度湛水を行い閉栓する。なお、水口が複数ある場合は等分してネットを設置する。
- 無人ヘリコプター散布をする場合は、次の事項に注意する。
 - ①散布は使用機種の基本に従って実施する。
 - ②事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整する。
 - ③粒剤散布装置を使用する場合は当該水田周辺部への飛散防止のための散布装置のインペラ（スピナ）の回転数を低速に調整する。
 - ④散布薬剤の飛散によって他の作物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、ほ場の端から5m以上離れた位置からは場内に散布する。
 - ⑤水源池、飲料用水等に薬剤が飛散、流入しないように十分注意する。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

⚠ 安全使用上の注意



- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。

治 療 法…該当なし

魚毒性等…水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しない。養殖池等周辺での使用はさける。水産動植物（甲殻類、藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
無人ヘリコプターによる散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意する。
散布後は水管理に注意する。
散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

保 管…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

